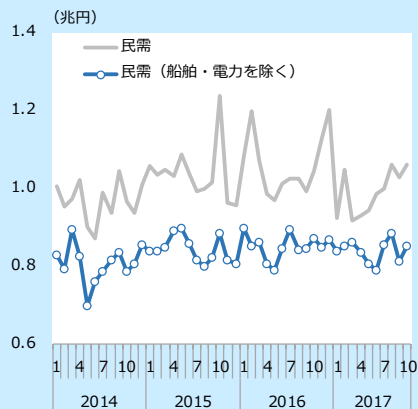


# 日本：機械受注統計（2017年10月）

## —設備投資ニーズの高まりから緩やかに持ち直す見込み—

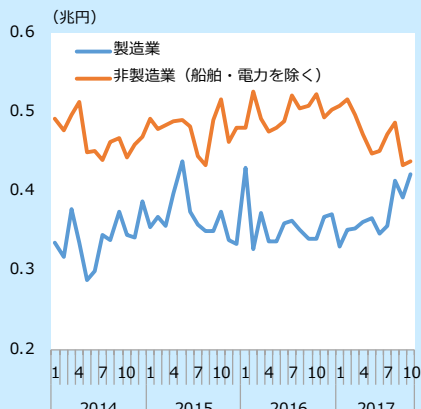
MRI Daily Economic Points  
December 13, 2017

図表 機械受注額



出所：内閣府「機械受注統計」

図表 製造業・非製造業別



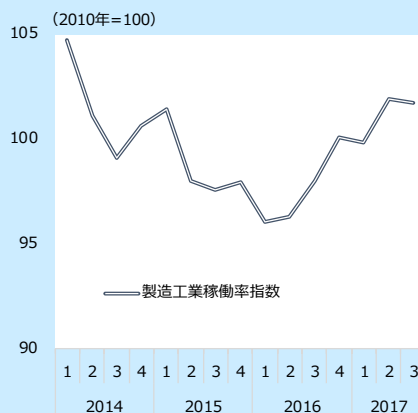
出所：内閣府「機械受注統計」

評価ポイント

## 17年10月の結果

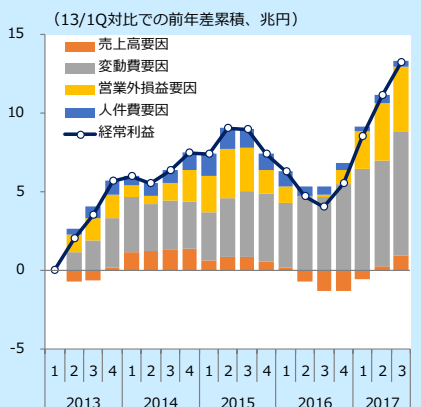
- 民間設備投資の先行指標である機械受注の民需（船舶・電力を除く）は、17年10月において季調済前月比+5.0%と増加したが、均してみると横這い圏内の推移となっている。
- 製造業は、同+7.4%と前月のマイナス分（同▲5.1%）を上回る増加となった。16年半ば以降は横這い圏内での推移が続いていたが、17年8月から持ち直しの動きが見られる。業種別にみると、化学工業（同+82.1%）、電気機械器具製造業（同+20.2%）、情報通信機械器具製造業（同+53.9%）等の寄与が大きい。
- 非製造業（船舶・電力を除く）は、同+1.1%と小幅な増加にとどまった。建設業、通信業やリース業等で減少したが、卸売業・小売業、情報サービス業等での増加がそれをカバーした。
- 外需は同+4.9%と増加し、堅調な世界経済を背景に緩やかな回復を持続している。また、中小企業からの受注とみられる代理店経由の受注については同▲0.2%と微減となったが、こちらも均してみれば増加基調を維持しているとみられる。

図表 製造工場稼働率



出所：経済産業省「鉱工業指数」

図表 企業収益（製造業）



注：全規模ベース。

出所：財務省「法人企業統計」

## 基調判断と今後の流れ

- 機械受注は業種による振れはあるものの、全体としては横這いで推移している。
- 先行きの機械受注は、緩やかに持ち直していくと予想する。製造業の工場稼働率は高水準を維持しており、また労働需給も非常に逼迫していることから、今後も自動化・省力化を目的とした設備投資ニーズは高まるだろう。また、企業収益も高水準を維持しており、投資余力も十分であることから、老朽化設備の維持・更新投資や、新事業創出や生産性向上を目的とする情報化投資等も底堅く推移すると考えられる。